

九品仏地区防災計画

【令和 7 年修正】

九品仏地区

目 次

1 九品仏地区の特性	九品仏-1(-495-)
(1)自然特性	九品仏-1(-495-)
(2)社会特性	九品仏-2(-496-)
(3)地域危険度	九品仏-4(-498-)
(4)被害想定	九品仏-5(-499-)
(5)防災資源一覧	九品仏-8(-502-)
(6)防災資源マップ	九品仏-9(-503-)
(7)区民アンケート	九品仏-10(-504-)
2 各団体の防災活動～現在の取組状況～	九品仏-19(-513-)
3 九品仏地区の課題と今後の取り組み	九品仏-25(-519-)
【1】九品仏地区における課題	九品仏-25(-519-)
【2】今後の取り組み	九品仏-25(-519-)
(1)しっかり備えて防災・減災	九品仏-26(-520-)
①安全対策	九品仏-26(-520-)
②災害時備蓄	九品仏-26(-520-)
③的確な初期対応	九品仏-27(-521-)
④情報収集先の確認	九品仏-27(-521-)
⑤安否確認への備え	九品仏-28(-522-)
(2)ダメージの少ない避難生活	九品仏-28(-522-)
①避難所運営の強化	九品仏-28(-522-)
②避難所で生活しない対策	九品仏-29(-523-)
(3)素早い生活再建	九品仏-29(-523-)
①避難所運営組織のリーダー	九品仏-29(-523-)
②ボランティアサテライトとの連携	九品仏-30(-524-)

1. 九品仏地区の特性

令和6年度 世田谷区危機管理部災害対策課

(1)自然特性

面積	1.24 Km ²	最高標高	45.9 m	最低標高	16.5 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

位置



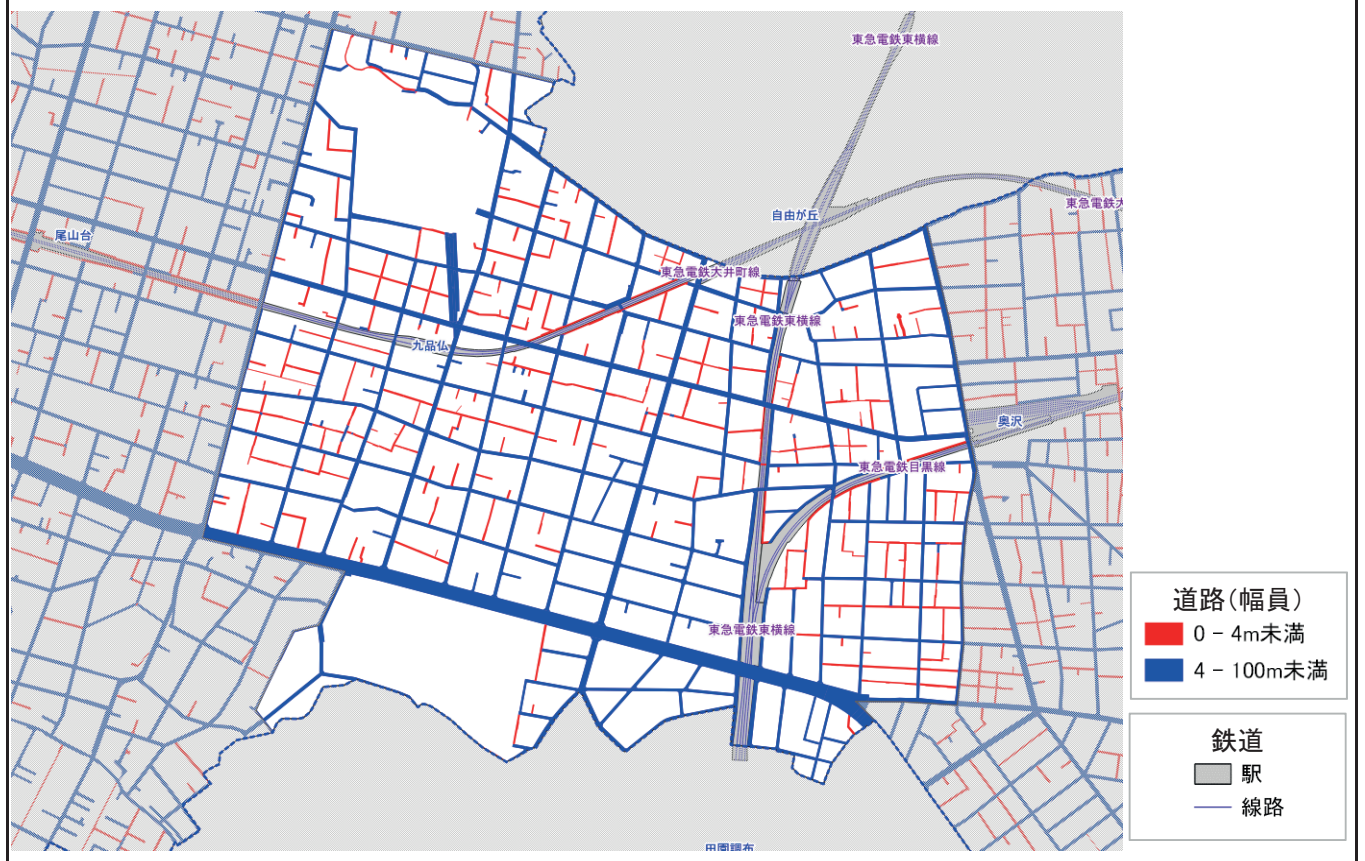
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

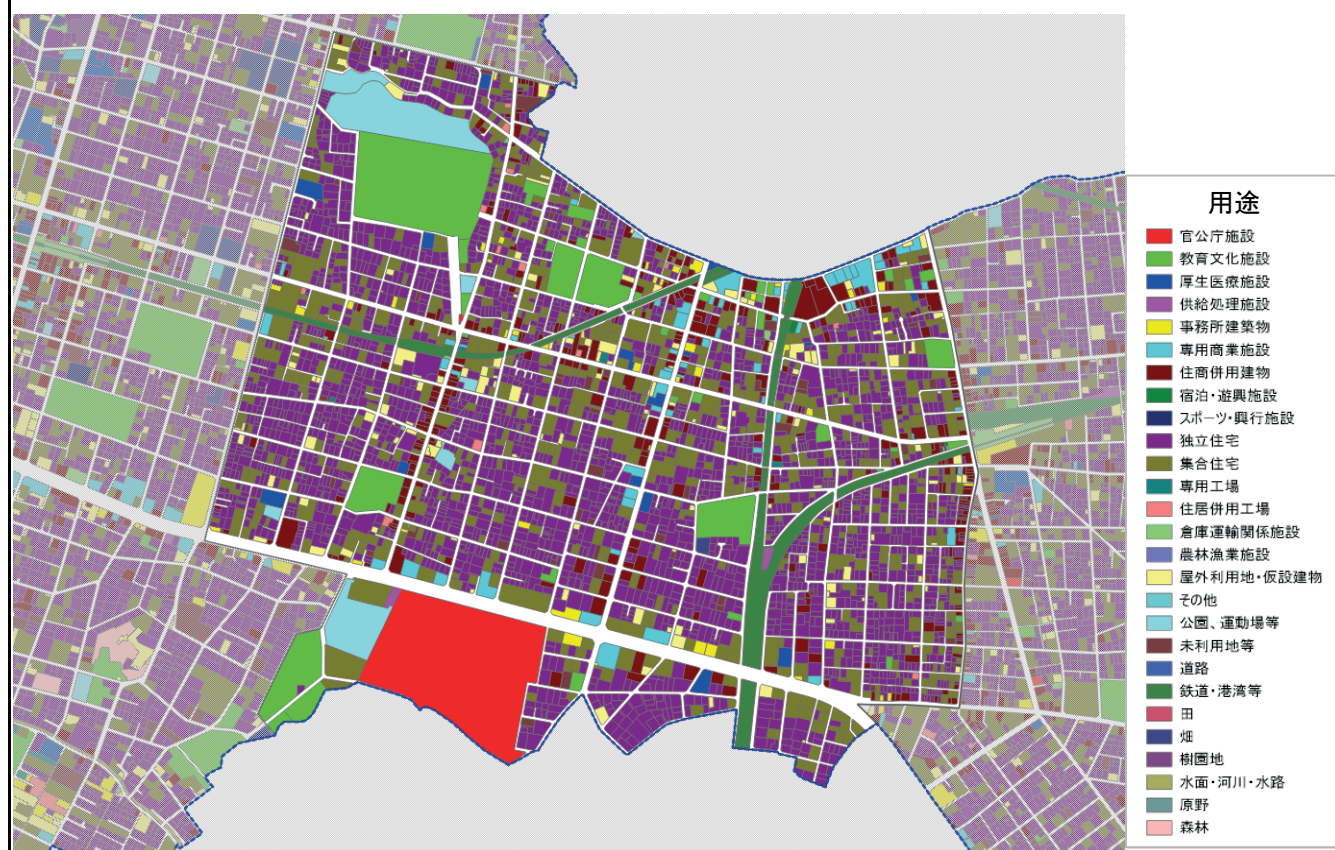
人口	17,004	人	細街路率	29.0	%	
世帯数	9,404	世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	37.0	棟/Km ²	
1世帯あたり	1.81	人	耐火率(建築面積ベース)	64.4	%	
若年層数(15才未満)	1,604	人	土地利用(宅地)	73.1	%	
若年層率(15才未満)	9.4	%	土地利用(宅地以外)	26.9	%	
高齢者数(65才以上)	3,938	人	鉄道駅	東急大井町線九品仏駅		
高齢者率(65才以上)	23.2	%				
昼間の人口	15,987	人	産業	商業	96.2	%
夜間の人口	17,762	人		工業	3.1	%
昼夜間人口比	0.90	-		農業	0.7	%
町会・自治会数	3	-				

道路・公共交通機関



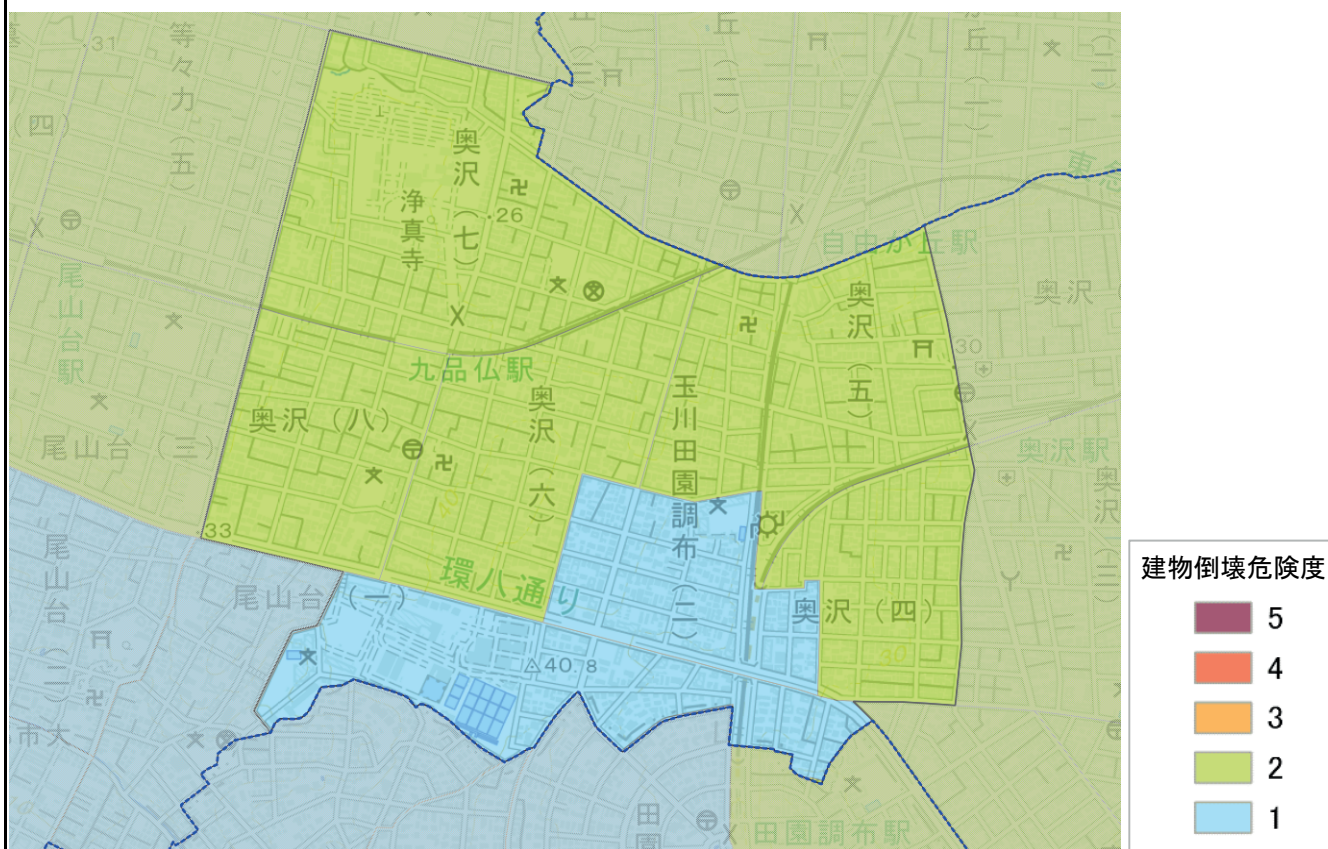
(2)社会特性

産業

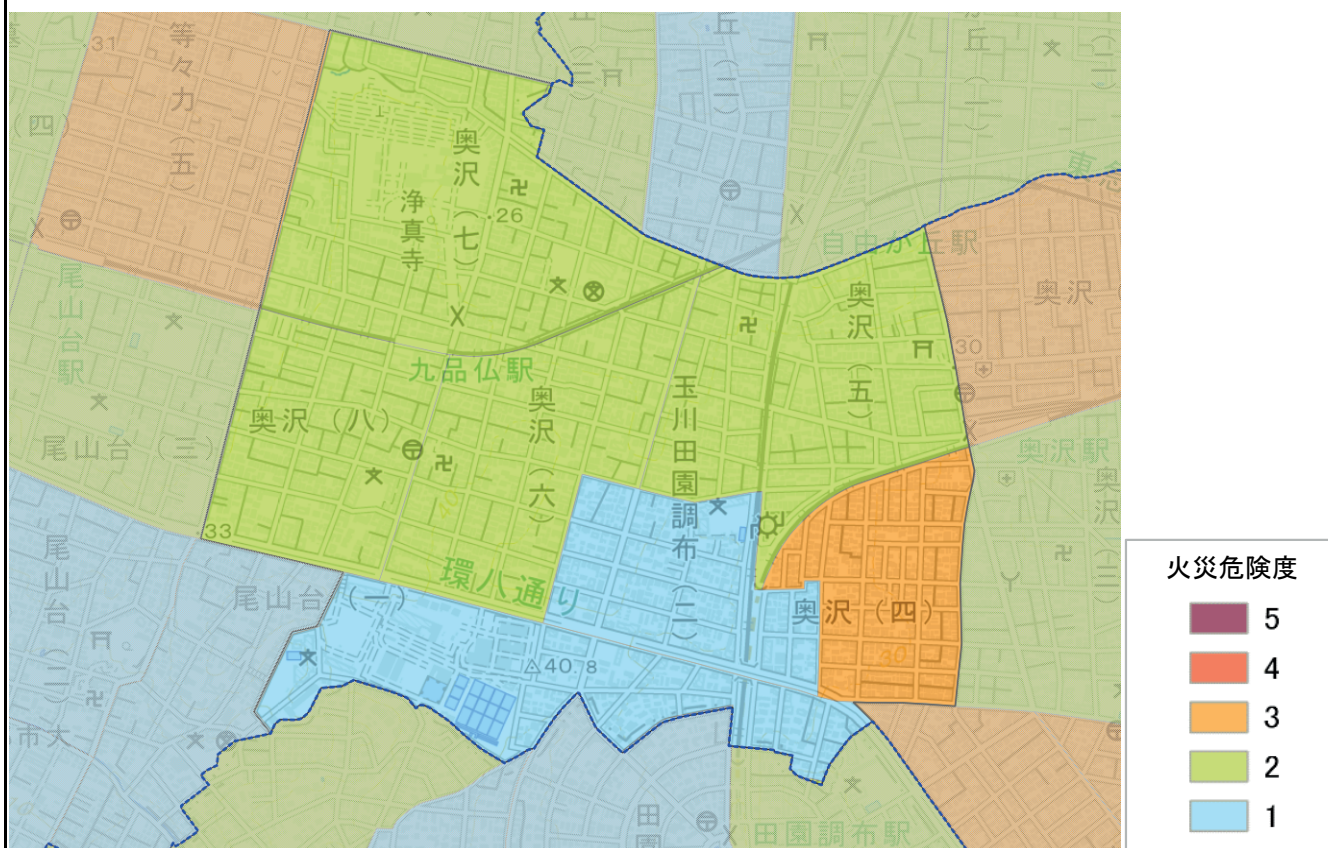


(3)地域危険度

建物倒壊危険度



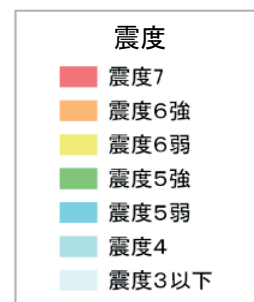
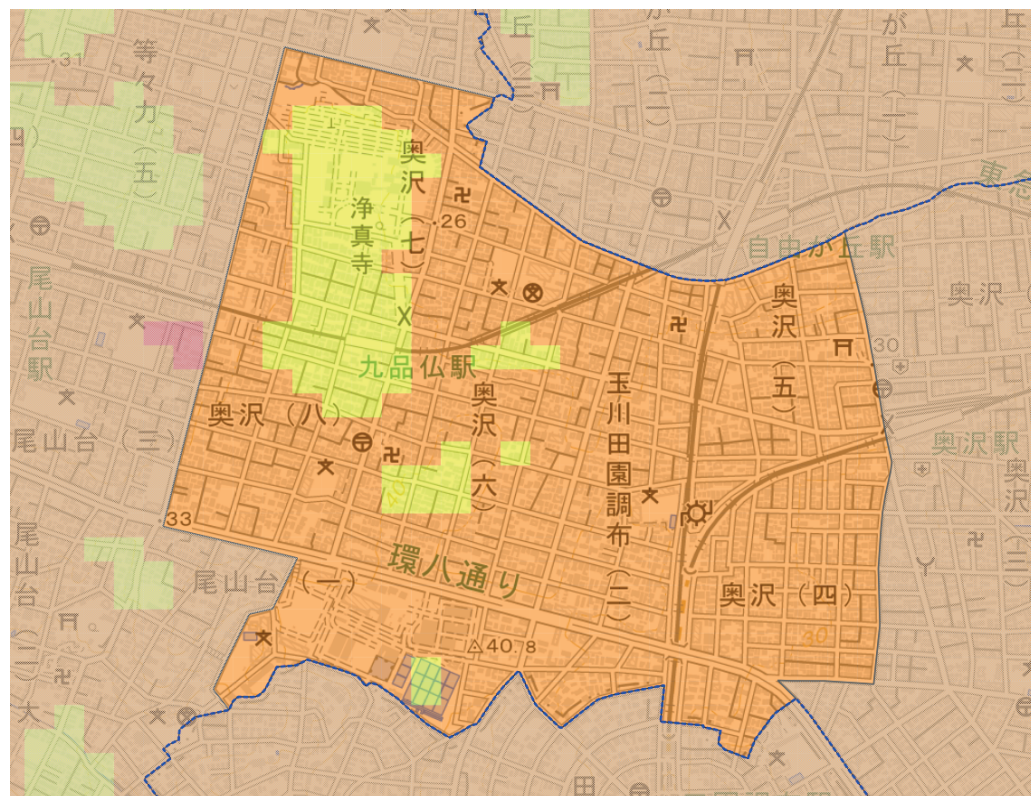
火災危険度



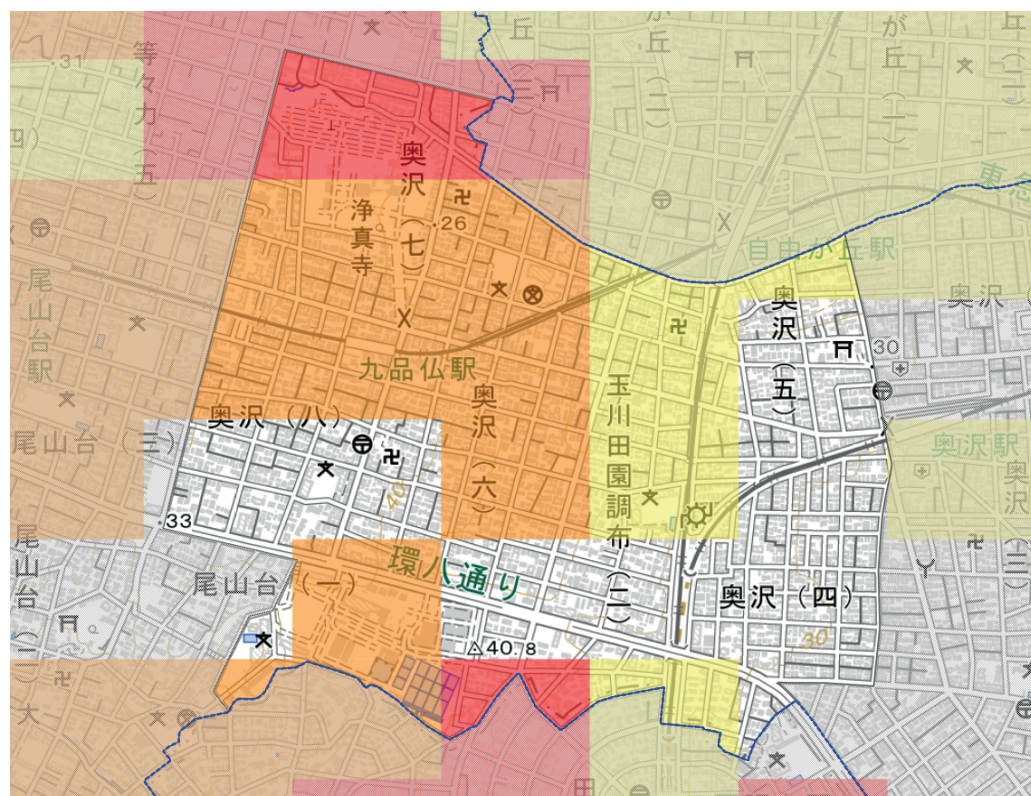
(4)被害想定

全壊棟数	191 棟	死者	15 人
半壊棟数	482 棟	負傷者	162 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	302 棟	うち重傷者	28 人

震度分布

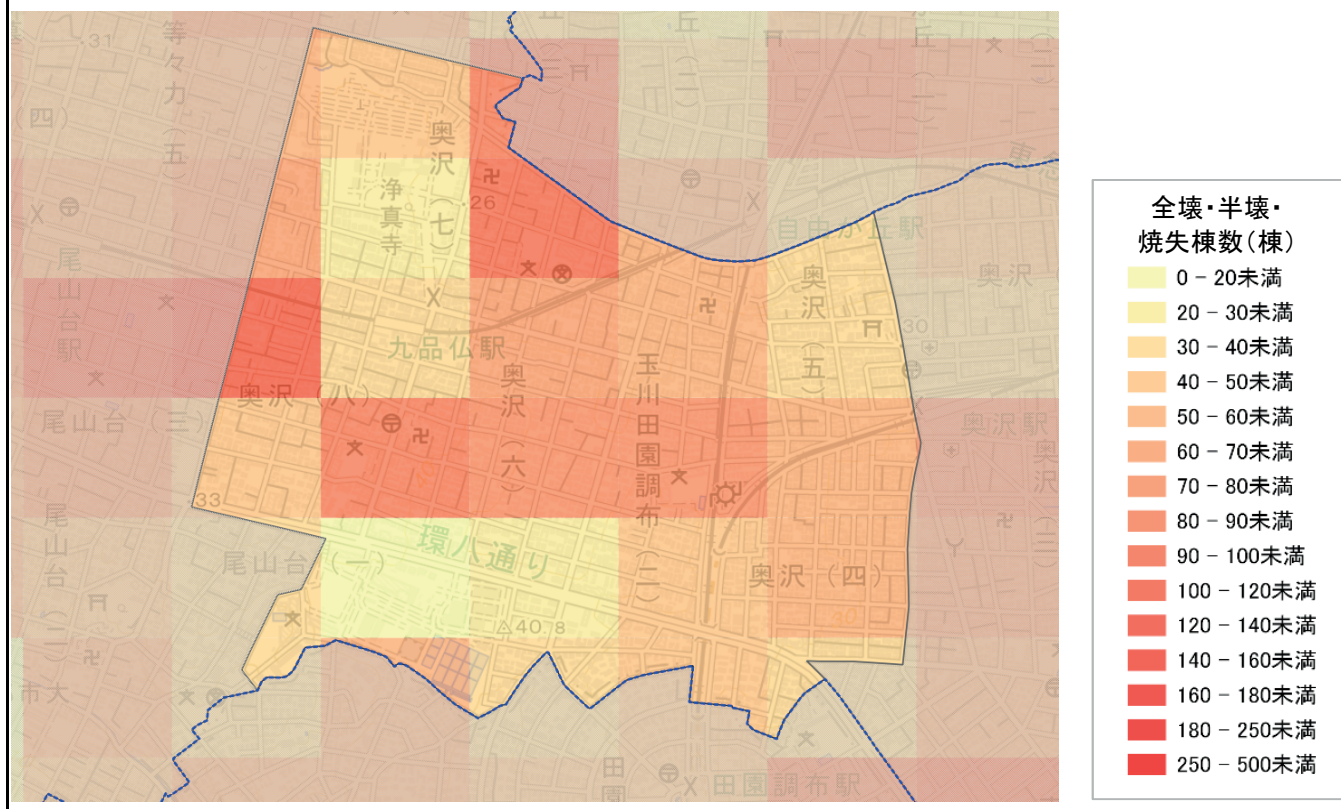


液状化分布



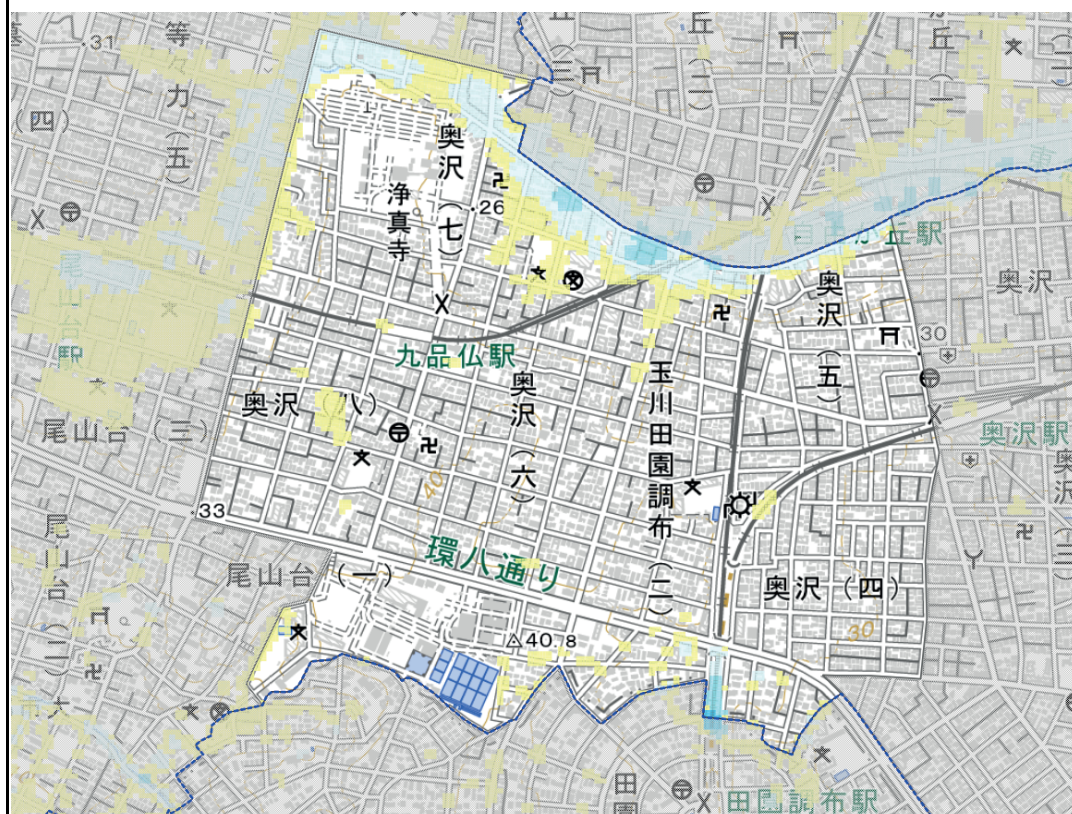
(4)被害想定

被害棟数分布

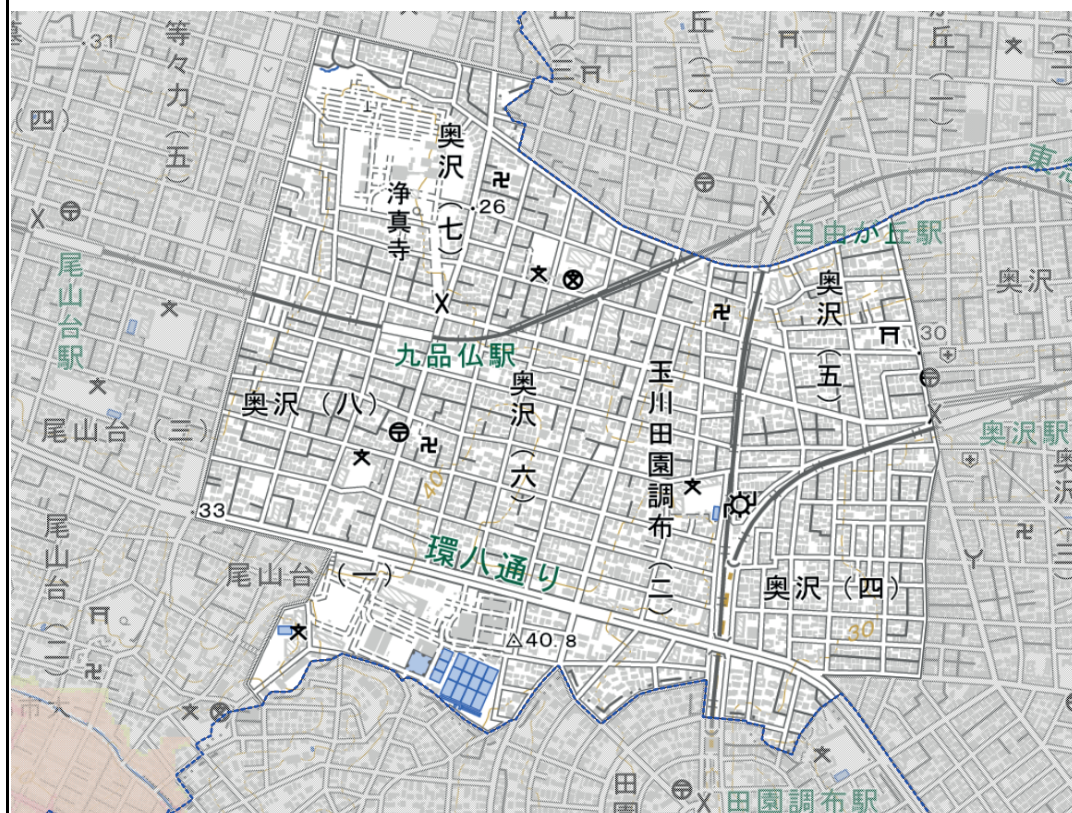


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



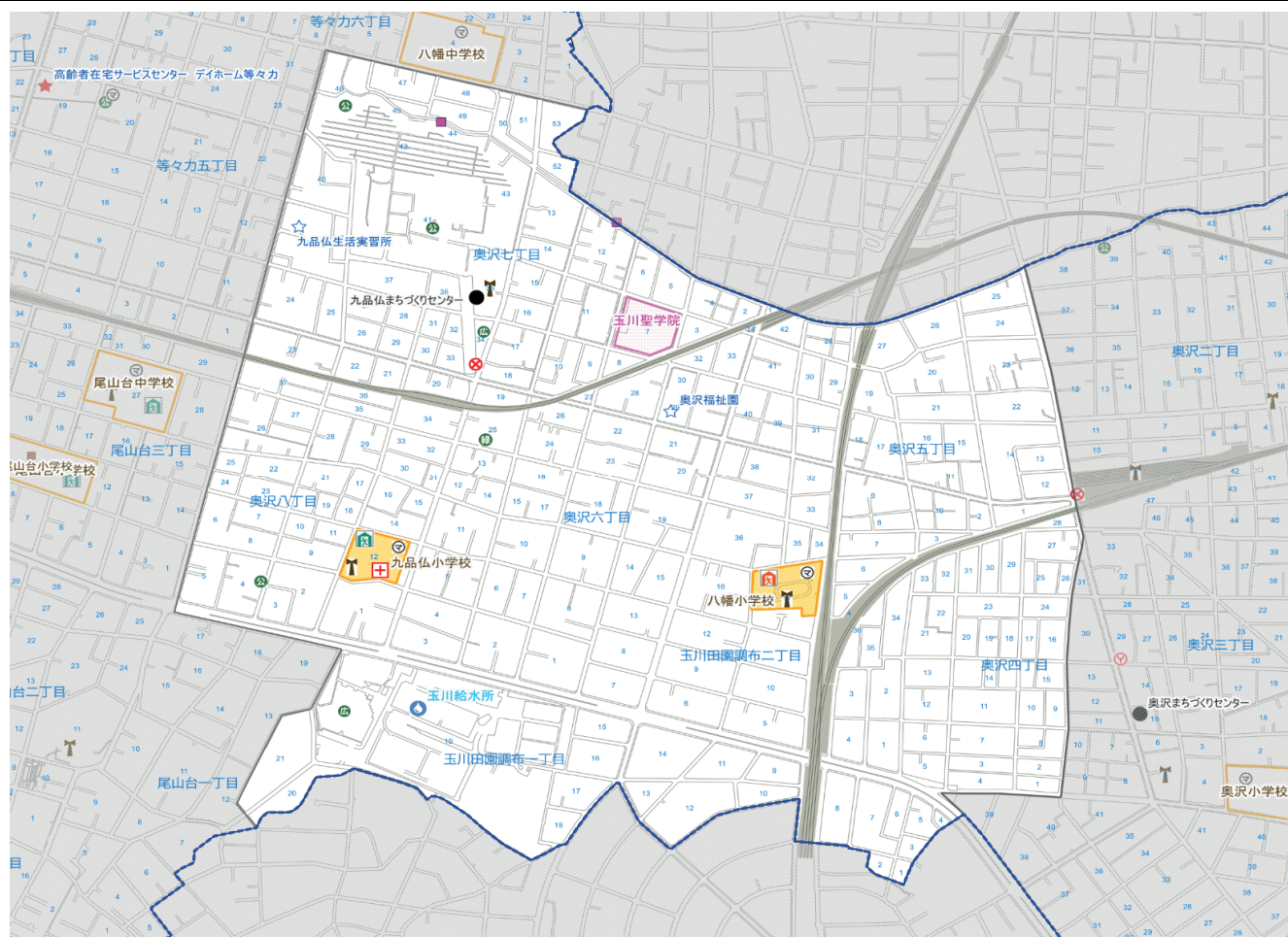
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所					
一時集合所	ぽかぽか広場 九品仏小学校 浄真寺参道付近 八幡小学校 八幡中学校				
指定避難所	九品仏小学校 八幡小学校 八幡中学校				
予備避難所					
福祉避難所(母子)	玉川聖学院				
福祉避難所(高齢者)					
福祉避難所(障害者)	奥沢福祉園 九品仏生活実習所				
水害時避難所(第1次)	八幡小学校	野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	九品仏小学校				
土砂災害時避難所					
避難所救護所	九品仏小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)			帰宅困難者支援施設	0 ヶ所	
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	3 ヶ所	防災行政無線塔	3 ヶ所	緑地	1 ヶ所
輸送拠点					
給水拠点	玉川給水所				
広域用防災倉庫					
土のうステーション	九品仏川緑道(奥沢7-12付近) ねこじゃらし公園付近路上				
警察署・交番	九品仏交番				
消防署・出張所					

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-----------------|
| ◎ 総合支所 | 緑 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | 指定避難所 |
| Ⓢ セタがや災害ボランティアセンター | 予備避難所 |
| Ⓢ 広域用防災倉庫 | 福祉避難所(母子) |
| 給水拠点 | 福祉避難所(高齢者) |
| 防災行政無線塔 | 福祉避難所(障害者) |
| マンホールトイレ | 水害時避難所(第1次) |
| 土のうステーション | 水害時避難所(第2次) |
| 警察署 | 野川・仙川洪水時避難所 |
| 交番 | 水害時避難所(狛江市) |
| 消防署 | 水害時避難所(調布市) |
| 消防出張所 | 土砂災害時避難所 |
| 身近な広場 | 避難所救護所 |
| 公園 | 東京都災害拠点病院 |
| 緑地 | 東京都災害拠点連携病院 |
| | 緊急医療救護所 |
| | 一時滞在施設 |
| | 帰宅困難者支援施設 |
| | ボランティアマッチングセンター |
| | 輸送拠点等 |
| | 一時避難施設(車中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版・内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(九品仏地区)

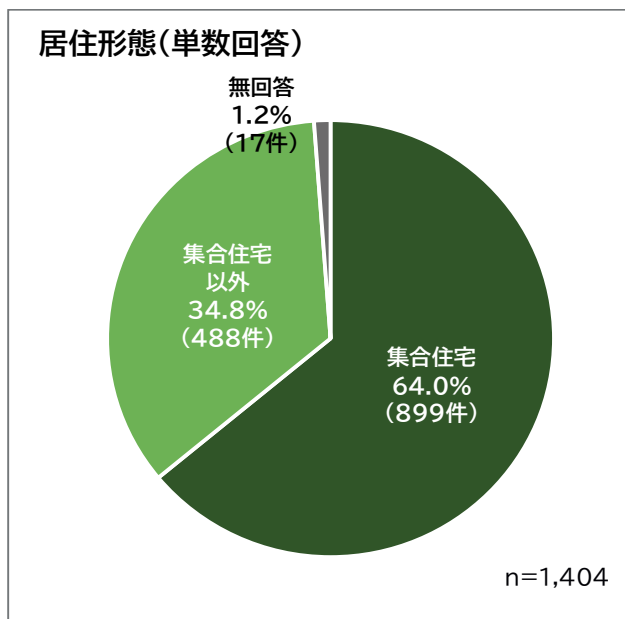
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

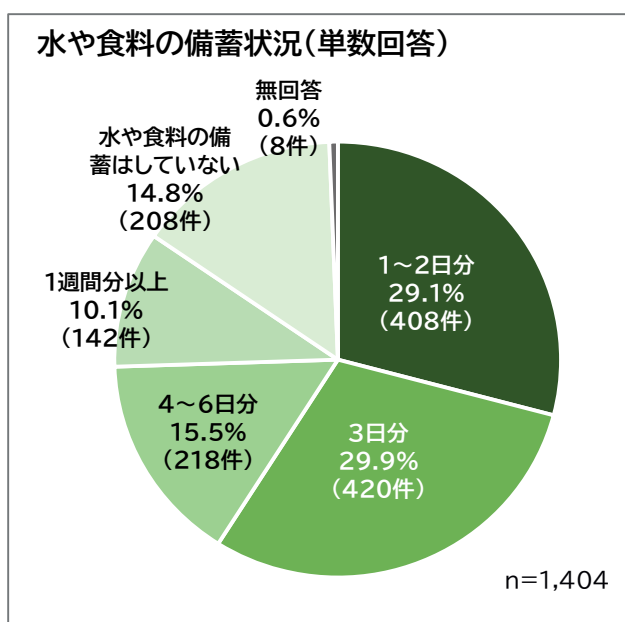
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



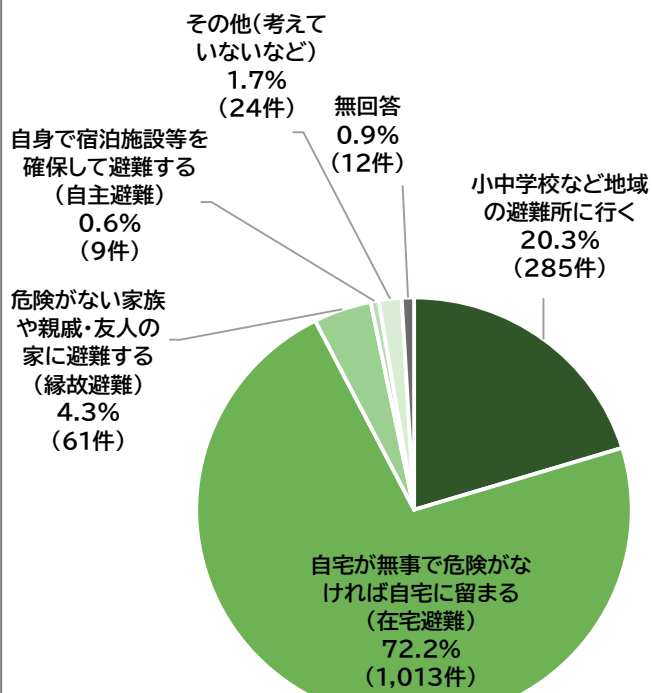
(7)区民アンケート(九品仏地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

震度6強の地震発生時の避難行動(単数回答)



n=1,404

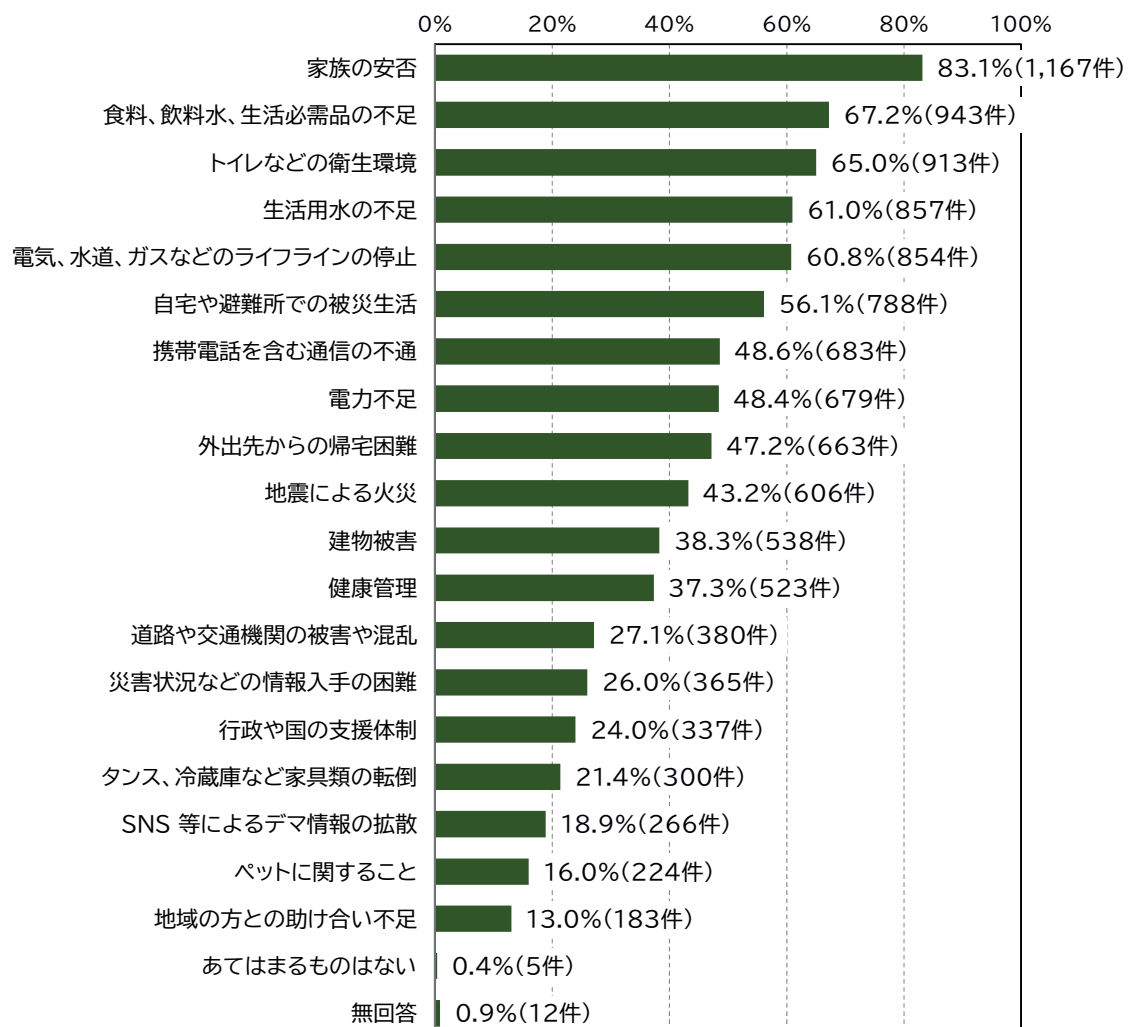
(7)区民アンケート(九品仏地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=1,404

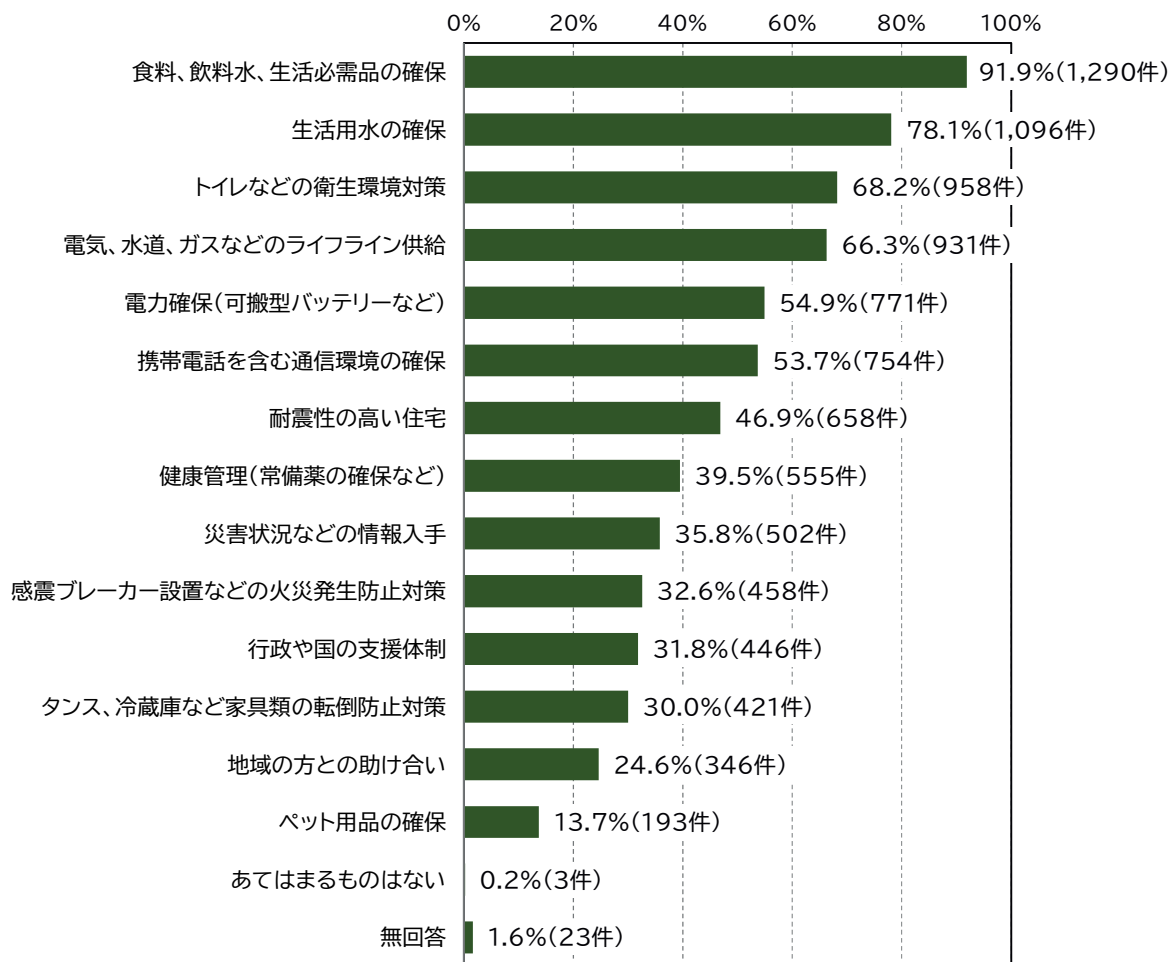
(7)区民アンケート(九品仏地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=1,404

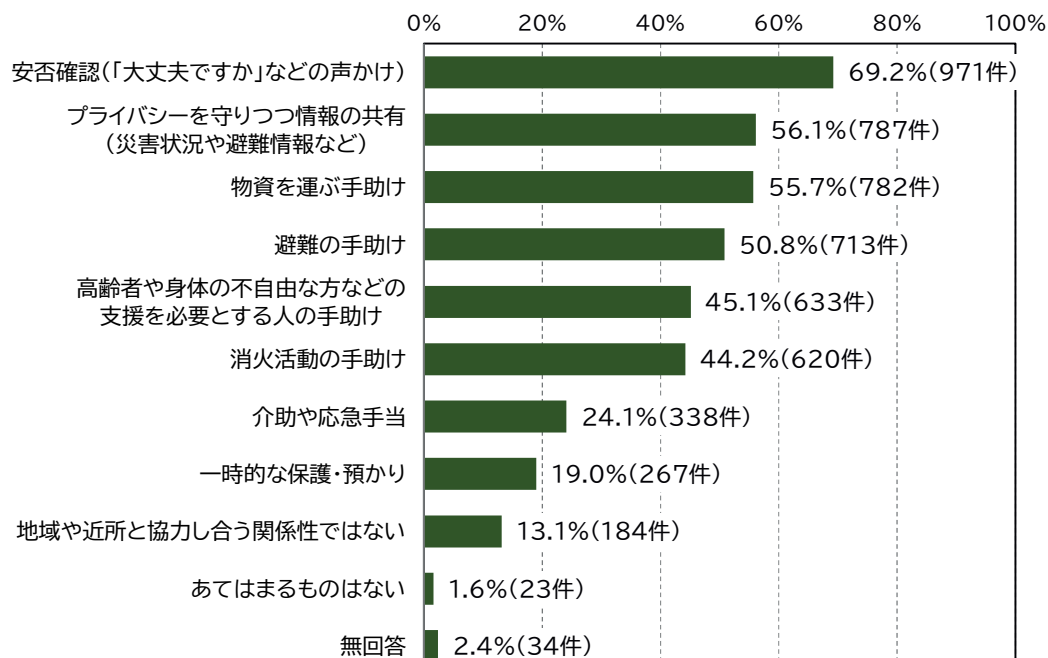
(7)区民アンケート(九品仏地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

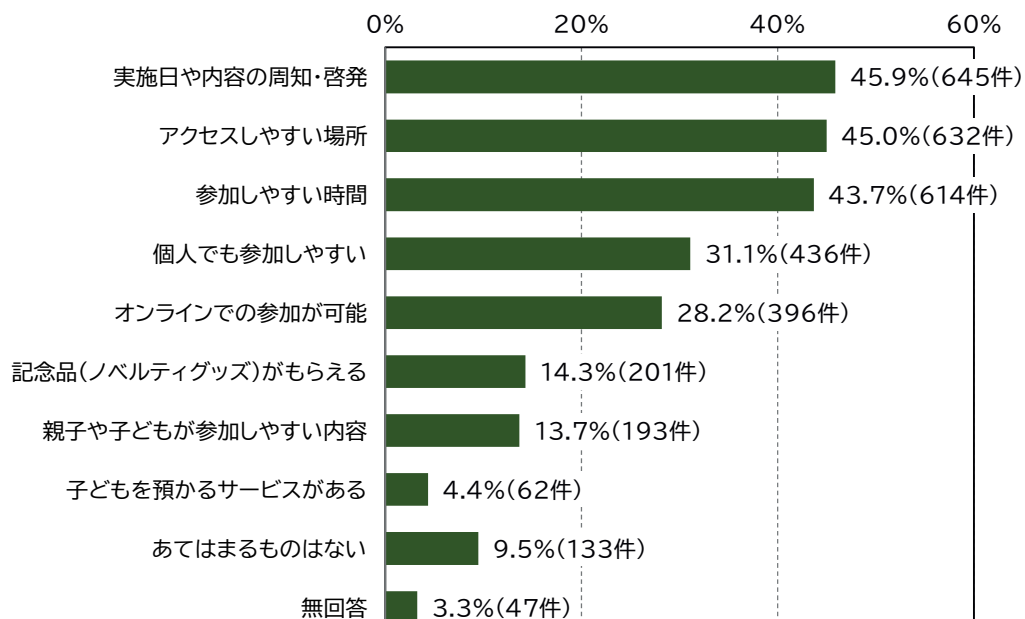


n=1,404

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



n=1,404

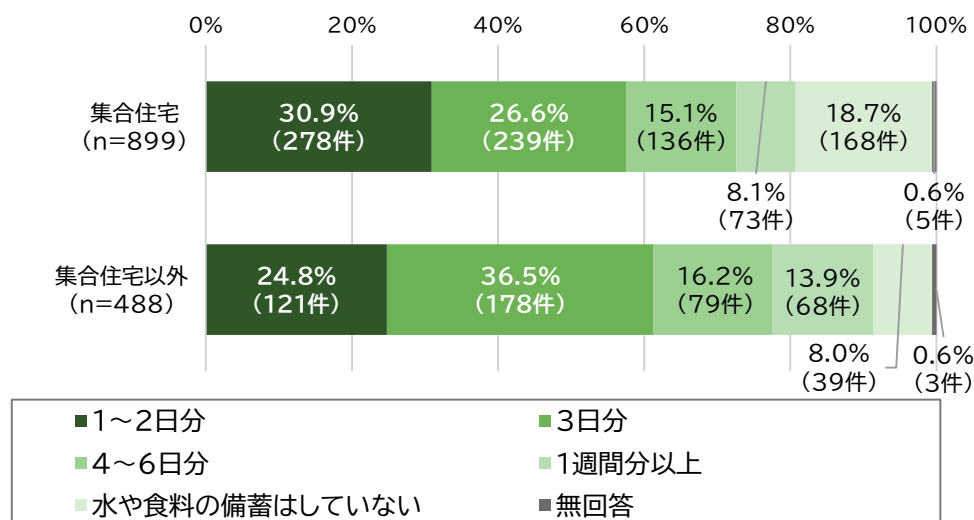
(7)区民アンケート(九品仏地区)

クロス集計(1/4)

水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

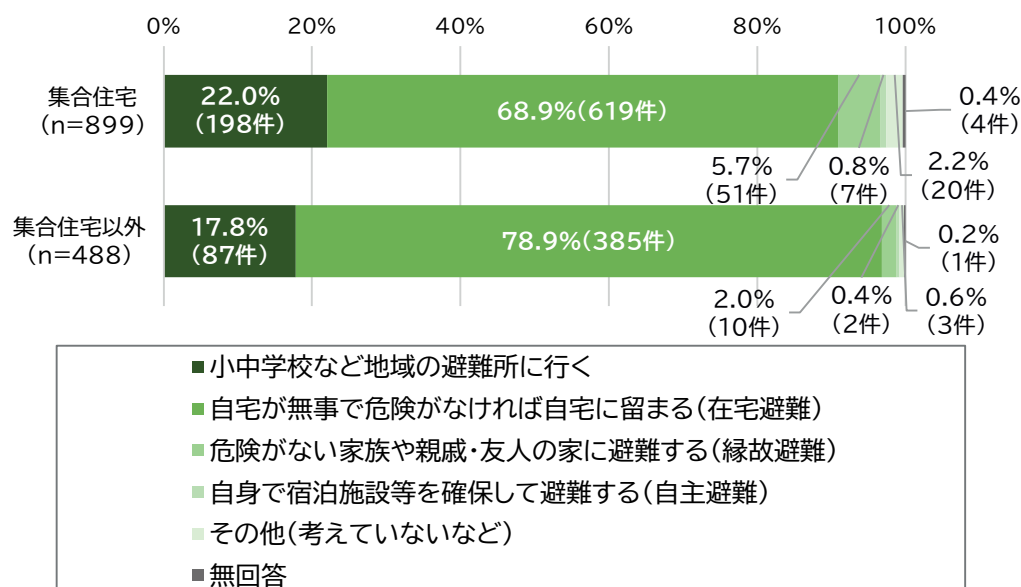
【居住形態別】水や食料の備蓄状況(単数回答)



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

【居住形態別】震度6強の地震発生時の避難行動(単数回答)



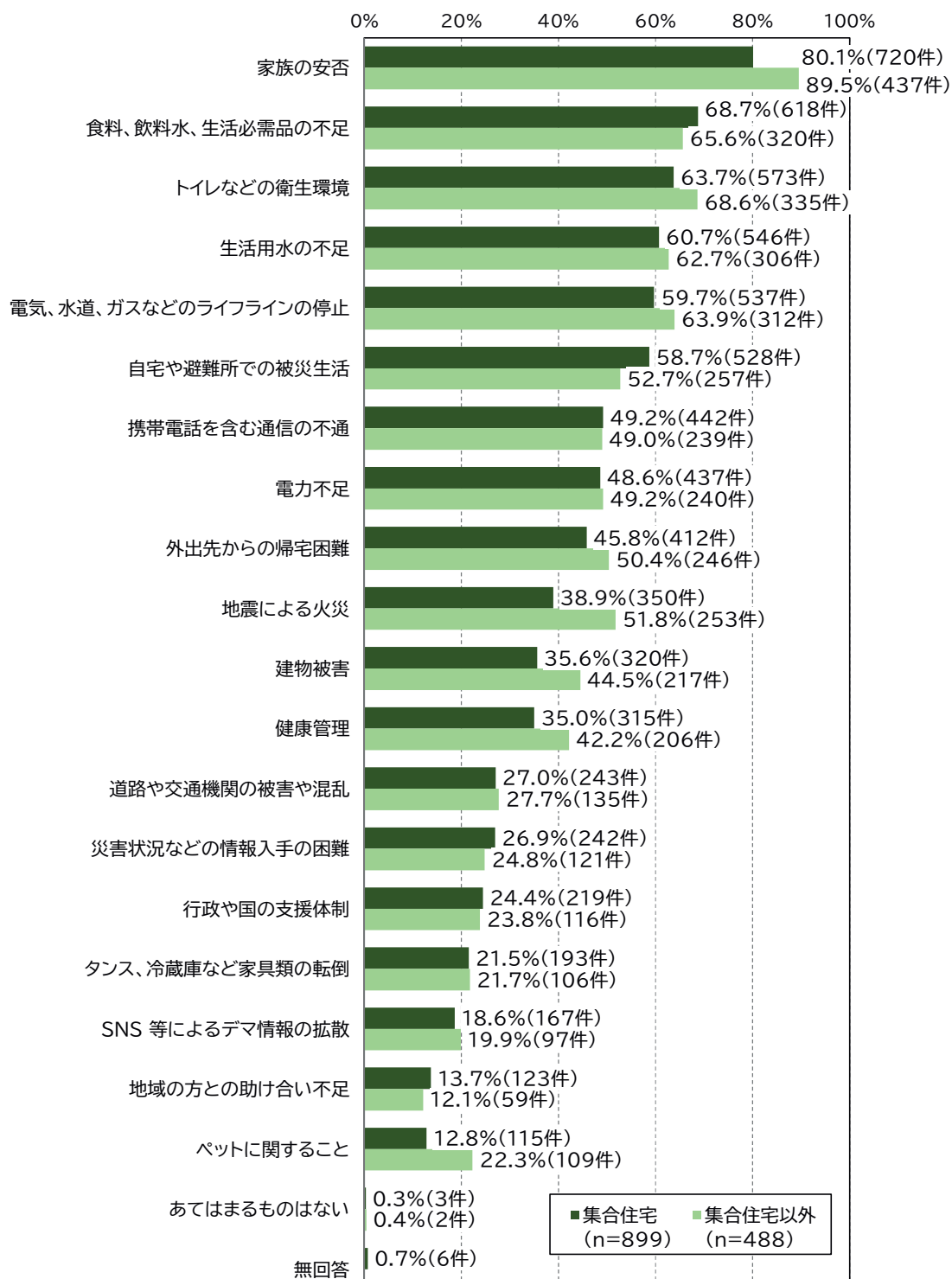
(7)区民アンケート(九品仏地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

【居住形態別】災害時の心配ごと(複数回答)



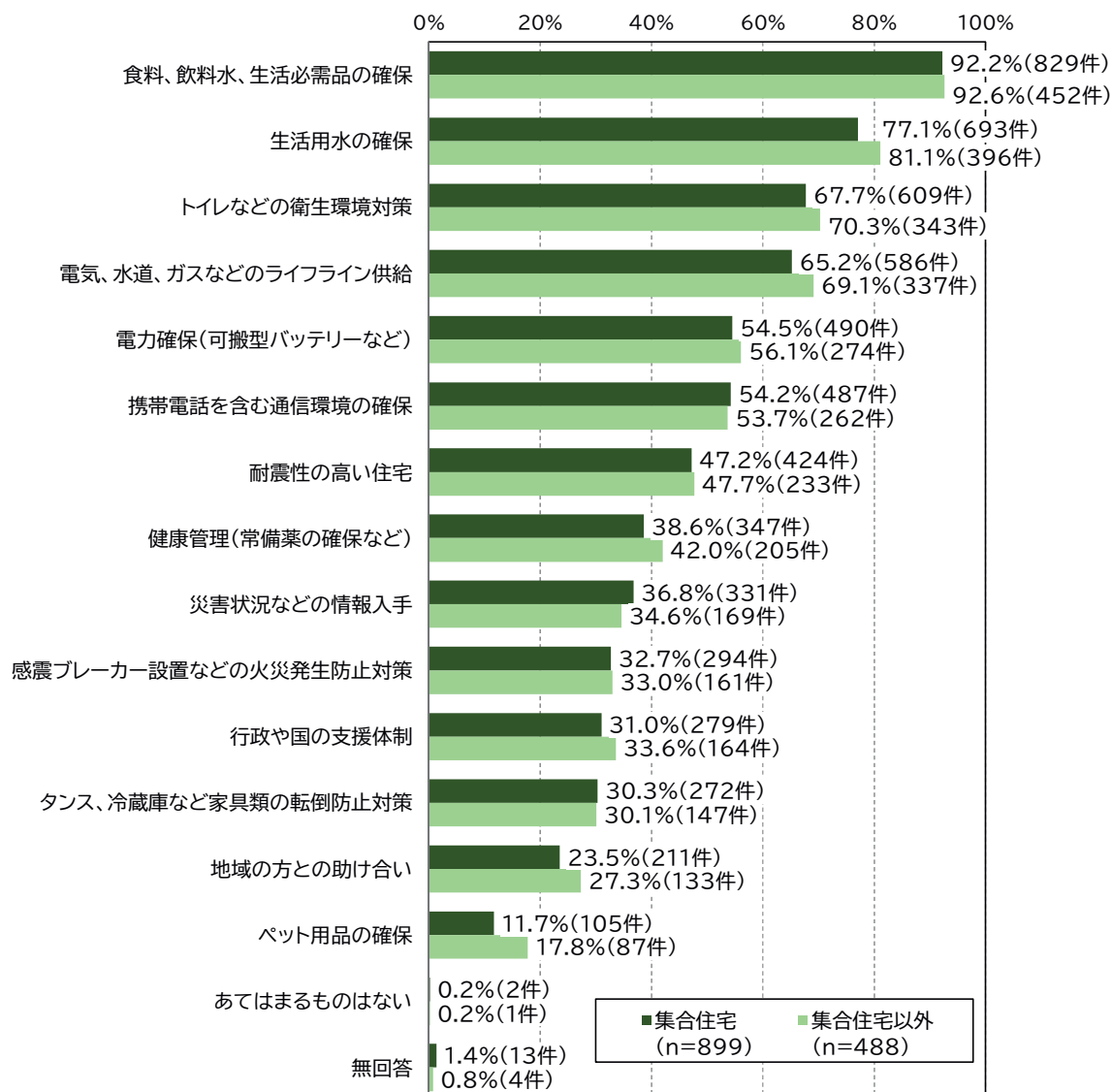
(7)区民アンケート(九品仏地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



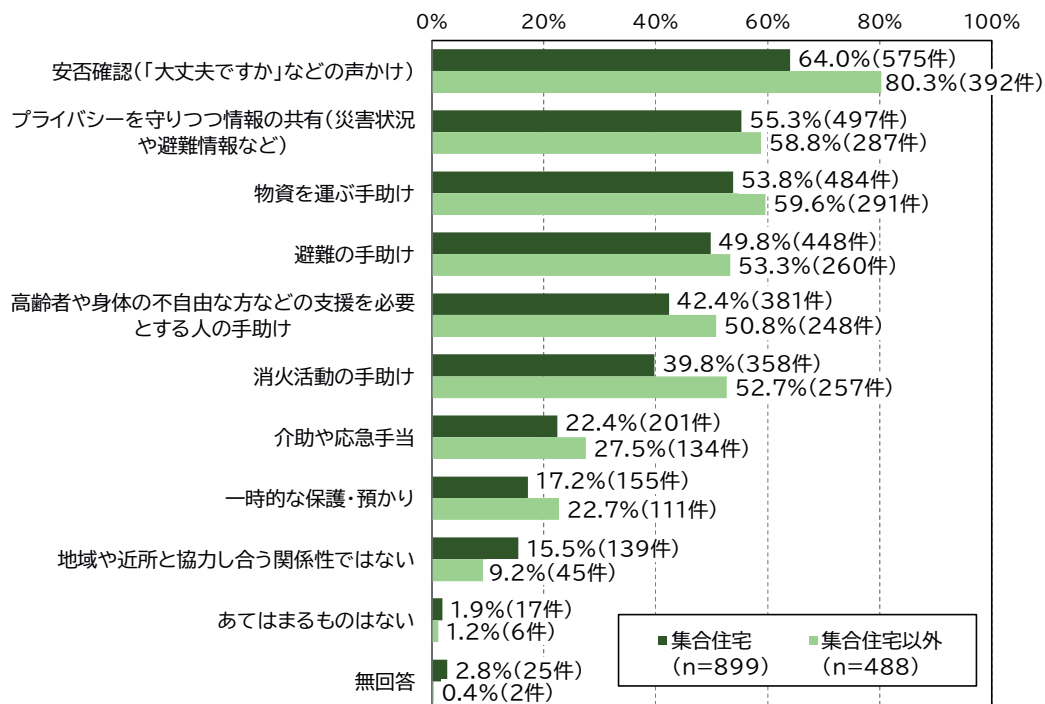
(7)区民アンケート(九品仏地区)

クロス集計(4/4)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

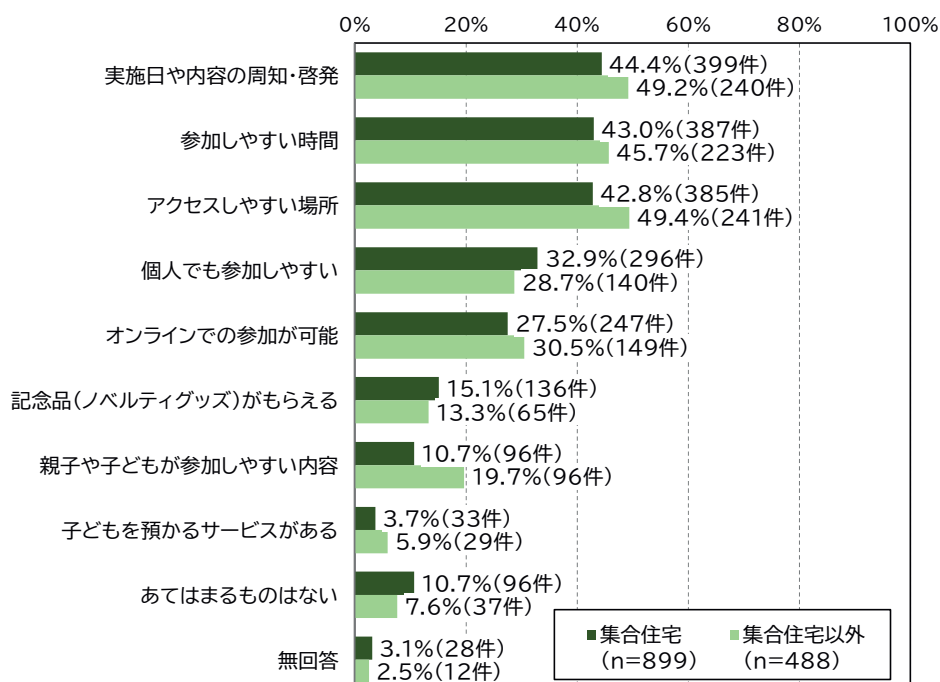
【居住形態別】災害時にできる住民同士の支援(複数回答)



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

【居住形態別】防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備							
		実施している	実施していない	会議名	実施回数 (年間)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器	
										数量	場所	数量	場所	数量	場所
玉川田園調布会	10	○		防災本部会議	10	○		○			個人宅駐車場等	2	個人宅駐車場、防災倉庫	3	玉川田園調布会館
奥沢中和会		○			6	○		○		1	中和会館駐輪場	1	奥沢東地区会館防災倉庫	2	奥沢中和会館
九品仏自治会		○			6	○		○		2	九品仏小学校敷地内自治会倉庫	2 (1) (1)	九品仏地区会館付属倉庫 八幡中学校敷地内自治会倉庫	4	九品仏地区会館付属倉庫

団体名	消火資 機材の 配備		防災訓練等の実施								防災マップ				
	その他		実施している	実施していない	防災訓練		救命救急 講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載 情報
	名称	場所			回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					
玉川田園調布会			○		11	八幡小学校 (避難所訓練) D型ポンプ置き (2か所)			避難所運営ス タッフ研修	公園、道路等 九品仏まちづ くりセンター	○				
奥沢中和会			○		1	八幡小学校	1	奥沢中 和会館	避難所運営ス タッフ研修	九品仏まちづ くりセンター			○		
九品仏自治会			○		2	九品仏小学校、八 幡中学校	1	九品仏 地区会 館	文化財消火訓練 まちかど防災 避難所運営ス タッフ研修	九品仏浄真寺 公園・道路等 九品仏まちづ くりセンター	○				

団体名	防災マップ						防災士等の数				災害時連携・協定 (区を除く)						避難行動要 支援者協定			避難行動要 支援者策 対策	
	掲載情報						防災士	把握 していない	地域 防災リー ダー	把握 していない	他 団体との 連携	協定 締結	特 になし	連 携 先・内 容	協定先・内容	締 結 して いる	検 討 中 で あ る	予 定 は な い	見 守 り 活 動	日 頃 か ら の 活 動	避 難 行 動 要 支 援 者 体 験
	避難 所	街 路 消 火 器	防 火 水 槽	震 災 用 井 戸	消 火 栓	その他															
玉川田園調布会		○	○	○	○			○		○		○			「チャームプレミア田園調布」(老人ホーム・高齢者受け入れ)	○					
奥沢中和会								○		○			○					○			
九品仏自治会	○						1	3		1				九品仏商店会				○	○		

団体名	避難行動要支援者対策		連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)					救出救助に係る資機材の配備										
	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	ボール	スコップ
玉川田園調布会	独自の要援護者マップの作成 安否確認訓練			○	トランシーバー2台	○						○	1		1		1	8			
奥沢中和会	黄色い襪作戦で安否訓練			○				○				○	1				3	20	1		
九品仏自治会			○		トランシーバー4台の 配備 配備済ノートパソコン2台を併用		○					○	2		1	2	3	30	2	3	

団体名	救出救助に係る資機材の配備							食糧等の備蓄											
	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	★その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明
玉川田園調布会					1	チェーンソー1台、レンチ1丁、カナテコ1本、防災頭巾19個、台車(大型1台)、拡声器5、バケツ4、シャベル2	D型ポンプ格納テント及び町会会館		○							3		18	
奥沢中和会						テント	奥沢東地区会館防災倉庫		○							2			1
九品仏自治会	1	2				LEDヘッドライト24台、車椅子2台、折りたたみ自転車1台(ノーパンク 20インチ)、テント	各避難所自治会倉庫及び九品仏地区会館付属倉庫		○				12			3		70	5

団体名	食糧等の備蓄					その他の防災活動
	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先
玉川田園調布会	1					
奥沢中和会	4				町会会館	
九品仏自治会	3		5L×50個	ライト2個 カセットボンベ50本 ガソリン16L 電池100本	自治会管理倉庫	九品仏小学校 八幡中学校の避難所
						ノートパソコン2台準備 (避難所データ管理・連絡用)IC プロジェクター1台 ポータブル電源(大小2台ずつ)、ソーラーパネル(2台)

3 九品仏地区における課題と今後の取り組み

【1】九品仏地区における課題

当地区では平成26年より防災塾を実施し、地区防災を考える機会としている。

令和5年度の防災塾において、九品仏地区防災計画の見直しに合わせて意見交換を行った中で、当地区での関心の高い防災への取り組みを「九品仏地区が備えていく防災への取り組み」として、実現に向けた課題と位置付けて、以下にまとめた。

九品仏地区が備えていく防災への取り組み

望ましい姿		今後の取り組み	
災害に強いまち	(1) しっかり備えて防災・減災	①安全対策	災害が発生した時の減災のための準備ができていること
		②災害時備蓄	在宅避難の準備が整えられていること
		③的確な初期対応	個人、地区の生活再建、復興に向けて共助の意識が高いこと
			災害時にどう動くのかを知っておくこと
			冷静な被害回避・避難行動によって命や生活資源を守ることができること
		④情報収集先の確認	情報収集と発信手段の事前確認をしておくこと
	(2) ダメージの少ない避難生活	⑤安否確認への備え	家族、友人などの安否確認ができること
			災害時要配慮者への配慮ができていること
		①避難所運営の強化	避難所の運営計画が確立されていること
	(3) 素早い生活再建	②避難所で生活しない対策	災害関連死を防ぐ意識、活動があること
			在宅避難、自主避難、縁故避難も視野に入れ、自身の事情も考慮した避難計画があること
		①避難所運営組織のリーダー	正しい情報がスムーズに伝わり、生活再建をイメージできること
②ボランティアサテライトとの連携		ボランティアが活動しやすいこと	

【2】今後の取り組み

【1】で示した「九品仏地区が備えていく防災への取り組み」について、(1)～(3)の3つの柱に整理し、九品仏地区の防災力の向上に取り組んでいく。

（１）しっかり備えて防災・減災

～命を守る～

～地区全体の安全確保と被害が広がらないための対策～

① 安全対策

☐ 災害が発生した時の減災のための準備ができていること。

過去の都市型震災では、建物や家具での圧死者が多かった。対策として、日頃から自分たちで危険箇所を点検し、備えておくことが大切である。

- | | |
|----|--|
| 自助 | <ul style="list-style-type: none">* 家の中の安全性を高めるための家具の転倒防止対策や安全ゾーンを設置する* 自宅の危険箇所を確認しておく* 耐震診断と耐震強化を行う* 普段から近隣の危険な場所を確認しておく（災害時踏切が開かず緊急車両が通れないエリアがある等）* 火災を出さないための取り組みを行う（通電火災予防のための感震ブレーカー（簡易型）設置等）* 倒壊家屋から助け出すための道具の確保・利用方法の確認をしておく |
| 共助 | <ul style="list-style-type: none">* 各種助成・支援制度（家具転倒防止、耐震診断、消火器・防災用品の斡旋等）を地区内に周知する |

② 災害時備蓄

☐ 在宅避難の準備が整えられていること。

都心部での指定避難所は入ることができる人数は限られており、人が殺到すると、苦しい環境になることが想定されるため、自宅が安全であれば、住み慣れた在宅での避難ができるように備えておく。

- | | |
|----|--|
| 自助 | <ul style="list-style-type: none">* 日頃から、ローリングストックを活用しながら、災害時に必要になるものを考えて、できる限り1週間分の備蓄を進める* 備蓄にあたっては、一般的な日用品に加え、自身の事情により必要になるものも考えて準備する |
| 共助 | <ul style="list-style-type: none">* 地区内への上記周知を進める |

③的確な初期対応

- ☐ 個人、地区の生活再建、復興に向けて共助の意識が高いこと。
- ☐ 災害時にどう動くのかを知っておくこと。
- ☐ 冷静な被害回避・避難行動によって命や生活資源を守ることができること。

いざというときに冷静に行動できるように、発災した際の手順を決めてイメージしてみることや、日頃から訓練等を通して経験するなど、平常時から考える機会を持ち、「地震が起きるという危機感」、「助け合う」などの意識を持つ。

発災時の初期消火は、被害の拡大を抑える事が出来るため、可能な範囲で初期消火にあたる。

しかし火災の拡大を食い止めることができなかった場合など延焼範囲が拡大し、生命に危険が迫った時は無理せず避難を行う。また、災害発生時にどう動けばよいかを知り、初動で適切な対応を行えることが減災につながる。

自助	* 自身の安全の確認方法を知る * 自宅の安全の確認方法を知る * 自宅周囲の安全の確認方法を知る * 家族の安全の確認方法を定める(集合場所や緊急時の連絡先を決めておく) * 避難場所や避難経路を知り、適切に避難する(一時避難、広域避難、在宅避難、自主避難、縁故避難、指定避難所など) * 訓練へ積極的に参加する * 消火器や消火設備の場所の確認をしておく * 火災を出さないための取り組み（避難時はガスの元栓を閉め、ブレーカーを落とす等） * 車での避難は行わない(緊急車両が入れなくなるのを防ぐ) * 火災発生時の避難時は、風向き等も考慮する
共助	* 区のあっせん制度の周知（消火器、感震ブレーカー） * 近隣の消火活動方法を知っておく(初期消火訓練の実施) * 地区の指定避難所運営への協力の周知をする * 地区内への上記周知を進める

④情報収集先の確認

- ☐ 情報収集と発信手段の事前確認をしておくこと。

災害時には、電話やメールが使えず、情報の受発信が困難になるほか、誤報が広まることが想定される。どのような情報収集、また地区からの発信の手段があるかを日頃から考えておく。

- | | |
|----|---|
| 自助 | <ul style="list-style-type: none"> * ラジオ、テレビ、防災行政無線、区の HP など、平常時から、使い方を確認しておく * アプリやメール配信サービスなど、事前登録が必要なものもある。平常時から確認しておく * 非常時に機器が作動できるような動力も準備しておく |
| 共助 | <ul style="list-style-type: none"> * 情報を発信・収集できるコミュニティの形成を強化する * 指定避難所での情報発信方法について、避難所運営委員会で検討する * 指定避難所の情報発信機器の使用方法について、訓練等で使用方法を知っておく |

⑤ 安否確認への備え

- ☐ 家族、友人などの安否確認ができること。
- ☐ 災害時要配慮者への配慮ができていないこと。

家族で災害時の集合場所やどのように行動するかを話し合うほか、隣近所がお互いに協力して安否確認・救助活動ができるように、日ごろからその方法を確認しておく。

また、大きな災害が発生した時は、自ら避難することが困難な方もおり地域の中での助けあいが重要になる。また、様々な配慮が必要な方がいることを理解する。

- | | |
|----|---|
| 自助 | <ul style="list-style-type: none"> * 集合場所や緊急時の連絡先を決めておく * 「地震が起きるという危機感」、「助け合う」などの意識を持つ * 命の笛のような SOS が発信できるものの活用 * 顔の見える関係づくり（日頃からの近所付き合い、防災塾や集会、イベント等への参加） * 災害時こそ、相手に寄り添った対応を心がける |
| 共助 | <ul style="list-style-type: none"> * 黄色い襷作戦（安否確認方法）や自主的な防災訓練等の定期的なイベントの開催 * 広報等により地域の取り組み、仕組みの周知を行う * 日頃から近隣でサポートが必要な方を把握しておき、災害時に訪問して安否確認を行う * 安否確認結果を共有する先、方法をお互いに事前確認しておく |

（２） ダメージの少ない避難生活

～助かった人の命と健康が守られること～

① 避難所運営の強化

- ☐ 避難所の運営計画が確立されていること。

避難所の環境は、限られたスペースで、多様性への配慮やプライバシーの確保、トイレ問題があるほか、夏場の熱中症、冬場のインフルエンザ等の感染症のリスクを抱えるなど非常に厳しい。その中で、避

難所を円滑に運営していくためには、運営体制の強化とともに、地域住民、学校、区の三者があらかじめ共通認識を持って備えていくことが必要不可欠である。

- | | |
|----|--|
| 共助 | <ul style="list-style-type: none">* ファーストアクション体制を導入した避難所運営マニュアルへの改訂を行う* 避難所となる学校の状況に合わせたマニュアルへ随時改訂を行う* 避難者自身で自主的に避難所運営ができる仕組みづくりを行う* 指定避難所への避難者の殺到を回避する取り組みを進める* 避難所問題を学ぶ講演会（在宅避難、自主避難、縁故避難のすすめ等）を開催する* 避難所でのペット、車両等の取扱いについて引き続き検証する* 災害時の防犯対策に取り組む（パトロール等）* 実践的な避難所運営訓練の実施(ファーストアクション体制を習得する等) |
|----|--|

②避難所で生活しない対策

- ☐ 災害関連死を防ぐ意識、活動があること。
- ☐ 在宅避難、自主避難、縁故避難も視野に入れ、自身の事情も考慮した避難計画があること。

避難所は、自宅に居住できなくなった被災者を一時的に受け入れ保護するための場所である。そのため、自宅で居住の継続ができる状況であれば、在宅避難をする。

- | | |
|----|---|
| 自助 | <ul style="list-style-type: none">* 避難所のあり方を理解する(一時的な滞在場所、避難者による自主運営)* (1)①安全対策、②災害時備蓄の実践により、在宅避難の準備ができていること* 指定避難所へ滞在しなくてすむよう、自身の事情にあった避難先を想定し準備する(在宅避難、自主避難、縁故避難など) |
| 共助 | <ul style="list-style-type: none">* 避難所のあり方を周知する |

(3) 素早い生活再建

～地域の復興に向けた支援（公助）を早く受けられること～

①避難所運営組織のリーダー

- ☐ 正しい情報がスムーズに伝わり、生活再建をイメージできること。

避難所が行政等から必要な支援を受ける場合や、復興、収束に向けて欠かせないのは、避難所内外への情報伝達であり、そのためにも意見をまとめるリーダーの存在が重要になる。

また、避難所では、日中は仕事等で地域に人が居ないことが考えられ、避難所の人手不足から避難所運営委員に業務が集中し、結果として運営が立ちいかなくなるといったことが想定される。そのため、誰

もが避難所運営実務を行えるように、実践的な訓練を行い、避難所運営委員にはリーダーとしての役割を担ってもらえる仕組みづくりが重要である。

- | | |
|----|--|
| 自助 | <ul style="list-style-type: none">* 指定避難所では自分のことは基本的に自分で行い、ルールを守った生活をする* 指定避難所では集団生活での役割分担として、積極的に運営に協力する |
| 共助 | <ul style="list-style-type: none">* 指定避難所の収束に向けて、共にリーダーに協力する* 地区内での協力を呼び掛ける等、避難所運営委員を増加させる |

② ボランティアサテライトとの連携

□ ボランティアが活動しやすいこと。

指定避難所の運営や、自身の生活再建に向けて、多くの人の協力があれば、より早く復旧することが可能となる。そのためには、ボランティアの活躍は大変有用となる。ボランティアと良い関係を築けるように取り組む。

- | | |
|----|---|
| 共助 | <ul style="list-style-type: none">* 地区内の指定避難所にボランティアサテライトが設けられるように調整する* 地区内のボランティアコーディネーターに各避難所運営会議に参加してもらい、平時から協力関係を構築する* ボランティアコーディネーターと避難所運営委員の役割の理解を進める* ボランティアの必要性の理解を促進する(防災塾等を活用) |
|----|---|